

コミュニティ・スクール委員会だより

にしみたか学園コミュニティ・スクール委員会 会長 吉松 勲

<http://www.mitaka-schools.jp/nishimitaka/> (にしみたか学園) <http://www.mitaka-schools.jp/nichu-jhs/> (二中)

<http://www.mitaka-schools.jp/nisho-es/> (二小) <http://www.mitaka-schools.jp/iguchi-es/> (井口小)

にしみたか学園アクションプラン

リモート会議で3校をつなぎ、
意見を交換します



井口小



二中



二小



子ども熟議

学園の教育目標

- ・学び続ける人
- ・共に生きる人
- ・たくましく伸びゆく人

学園が目指す理想の児童・生徒像

- ・自ら考え、行動し、自ら未来を切り拓いていく児童・生徒
- ・失敗を恐れず、積極的にチャレンジしていく児童・生徒

これらにしみたか学園の教育目標、理想とする児童・生徒像は机上の空論であってはなりません。学園では、にしみたか全体のご協力を得ながらこれらの理想に向けて行動するための「アクションプラン」を作成しています。今年度は二カ年計画の一年目、さまざまな視点からの声を集めたようすをご紹介します。

自分がどうなりたいかは自分で決める！「子ども熟議」

今回アクションプランを考えるにあたって大事にしているのが子どもたち自身の声です。どれだけ周りの大人が子どもの未来像を語っても、本人がどうなりたいか、どうありたいかを無視することはできません。そこで子どもたちが目指す児童・生徒像を考える「子ども熟議」を開催しました。

3校の生徒会役員や代表委員会の委員がそれぞれの学校からリモートで繋がり、各校で検討した意見を発表し合いました。対面じゃないと意見が言いにくいかも？と心配しましたが、子どもの順応性はすごい！発言は活発で、通信状況が悪くなってもすぐにチャット機能に切り替えるなど対応していました。

うれしかったのが、子どもたちから「地域行事にもっと参加したい」「企画から携わりたい」という意見が出たことです。一般的に、今の子どもは大人世代と比べて楽しいことの選択肢が山ほどあって、地域行事の重要性が昔より薄れていると感じていたところに、子どもたち自身が地域行事に参加したいと思っていると知れたのはある意味意外でしたし、今も昔と変わらず地域行事が子どもたちにとって魅力的なんだと嬉しい気づきを得られました。しかも企画から関わりたいと思っていたというのにはすでに「自ら考え行動する」ことの芽が育っているということ。子どもたちからアクションプランに対する大きなヒントをもらっています。

子どもたちが考えるアクションプランに対して周囲がどんな働きかけをできるか、さまざまな視点からの声も集まっています。



学園キャラクター「あささん」

意見がたくさん出たよ

↓4P

職業人体験

さまざまな職業人から仕事のやりがい、プライド、苦勞、そしてその乗り越え方など、貴重なお話を包み隠さず聞かせてもらうキャリア教育「職業人に学ぶ」(二・中一年生)「職業人の話を聞く」(二・小井口小6年生)が行われました。将来どんな職業に就きたいか決まっている子も、決められない子も、まだ想像もできないという子も、1人1人自分のペースを大切に、未来へ向かって1歩あゆみを進められる時間になりました。関わった全ての大人のまっすぐな気持ちが、にしみたか学園の子どもたちに届いていると嬉しいのです。

一部ですが講師の方にご感想をいただきましたのでご紹介します(写真は当日のようすです)。

天野慶様

「歌人」という身近になかかない「レア(?)」な仕事について、みんなどんな気持ちかな?と、どきどきしていました。教室に入って、すっと背すじを伸ばしてウンウンとうなずきながら聞いてくれる姿を見て、とても感動しました。質問もすごくして! みんなインテリジャーになれそうですね!

魚住祥一郎様

さまざまな経験を経て今の仕事をしているキャリアから、子どもたちに3つのことをお伝えしたいの思いで、お話をいたしました。「学校は勉強だけではなく、社会で幸せに生きていく為の術を学ぶところ」「自分がレギュラーになれるフィールドを見つけよう」「向いていないと思ったら、フィールドを変えることも一つの選択肢」という内容です。どこまで伝えることができたかはわかりませんが、みんな食いつくように話を聞いてくれたことがうれしかったです。



柴田郁恵様

10名以下の少人数だったので、ひとりひとりとコミュニケーションがとれました。運動指導の仕事の種類や仕事への向き方だけでなく、これから目指す際のポイントについてもよく理解してくれました。ヨガのポーズを2つ実演すると、自分たちのからだか思ったよりも力強いことに気づいた子もいたようです(笑)。ストレッチが大切ということがわかってくれたらうれしいです。

木村充様

中学1年生で将来何になるか決まっている人が多数いてびっくりしました。話もよく聞いてくれました。今回の話を聞いて旅行業に少しでも興味を持ってくれる人がいたら嬉しいです。どんな時でも目標を持って学校生活を楽しみ、充実した時間を過ごして下さい。



片木徹也様

子どもたちが洗剤や洗濯について、たくさん質問してくれて、私も楽しかったです。将来の事を考えるきっかけに、少しでもなったのであればうれしく思います。コロナ禍であり、準備をくださった皆様は、大変なご苦勞があったかと思えます。お忙しい中、貴重な経験をさせていただき、誠にありがとうございました。

宮島百子様

時間になる前から「もう始めましょう! たくさん聞きたい!」と意欲あふれる姿勢を見せてくれた6年生。質問もたくさんしてくれました。幼稚園の先生はただ子どもと遊んでいるだけでなくいろいろな配慮をしたり、成長につながる工夫をしていること、子どもの心につかり寄り添い気持ちを共有することを大切にしていると伝えました。卒園生が「幼稚園が楽しかったのは先生たちがいろいろ考えてくれたからなんだと思います」と言ってくれ、涙が出るほどうれしかったです。

佐藤亜弥様

子どもたちがいるのになにに興味を持ってるのが質問からわかりました。慣れないのでうまく話ができなかった不安がありますが、私の伝え方が、「好きなことを続けること」「失敗を恐れず努力すること」「やらずに後悔するよりやってみて後悔した方が自分の糧になるということ」が、なんとなく伝えられたかなと思います。



田村緑様

演奏家は声がかれば地球の裏側にも出かけ、演奏するお仕事(旅人)。「音楽の力」を信じ音楽に向き合えば、その感動を聴く人と共有します。音楽が「好きすぎて」やめられず、仕事にしたケースがほとんど。生涯、演奏できるよう、表(舞台)に見えない部分で、たゆまぬケアと努力を積み重ねる人々です。



菅佳那子様

生徒の皆さんに自分の仕事について知ってもらうよい機会になりました。自分が思っている以上に質問をいただき、それについてのお話もできたので、私も嬉しかったです。雑談タイムでは、生徒の方と質疑応答では言えなかった話ができただけよかったです。コロナ対策のご配慮もいただきありがとうございます。



いろいろな仕事があるね

ご協力いただいた講師の皆さま

- 五十音順、敬称略
- 天野慶(歌人・絵本作家) / 雨宮 竜子(心理カウンセラー・保健所精神相談員)
- 猪狩充(弁理士) / 岩本伸一郎(システムエンジニア) / 魚住祥一郎(パティスリー・おの森) / 片木徹也(洗剤メーカー研究職) / 片倉洋子(アーティスト)
- セラピスト・絵画造形教室主宰)
- 加藤雅江(杏林大学保健学部健康福祉学科教授) / 亀井寛之(建築家・デザイナー) / 木村充(旅行業) / 小寺史典(図書館司書) / 齊藤大輔(三鷹市役所企画経営課長) / 佐々木美智代(翻訳・通訳案内士) / 佐藤亜弥(PILINA CAFEオーナー) / 柴田 郁恵(ボディバランストレーナー) / 下嶋 哲也(言語聴覚士) / 菅 佳那子(国土交通省東京航空局保安部運用課) / 田邊健史(NPO・行政・企業間のコーディネーター)
- 田村緑(ピアニスト) / 橋本正洋(障がい者支援員) / 畠山久(法政大学情報メディア教育研究センター講師) / 水谷大介(レインングドライバー) / 宮島百子(鶏鳴幼稚園教諭) / 森川園子(国際基督教大学行政事務グループ) / 森島奈美(税理士) / 横川 拓郎(環境省) / 好井 栄子(セラピスト) / 吉野 裕作(都市農家) / 米川充(株式会社文伸)

講師紹介

にしみたか学園アクションプラン



◀地域熟議



◀3校PTA連絡会

親を見せる 子を見守る

家庭ができることは何か？保護者の立場として二小・井口小・二中のPTA役員が一堂に会する「3校PTA連絡会」で熟議を行いました。子どもたちに一番近い立場の大人として子を見守る、子に親の姿を見せるということがキーになりそうです。そして全てに対して共通して出たのが「親子コミュニケーション」の重要性。対話に限らず同じ音楽を聴いたり同じ映画を観たりして経験を共有するのもコミュニケーションの一つとなるでしょう。

にしみたかが誇る地域力

各地域団体の方、現役CS委員とOB・OGで行った「地域熟議」は対面とリモートのハイブリッド開催となりました。にしみたかは地域行事が盛んで、子どもたちが望む「自分たちで行事を企画、実現させる」事に対するプラットフォームがすでにあります。地域の方は、にしみたかの子どもたちのことを本当に親身に考えてくださっています。地域行事にこれまで以上に参加してほしいという強い想いがあります。これをいかにアクション

ンプランに繋げていけるかがポイントになってくるでしょう。

さまざまな学びの場

先生方からは、アンケートで意見が寄せられました。改めて言うまでもありませんが、学校は勉強をするだけの場所ではありません。学校行事や係・委員会活動、クラブ活動に部活動、異学年交流、キャリア教育。自主性に繋がるチャレンジができる場所さまざまな学びや協働の機会にあふれています。先生方からもそんな経験の機会を後押しするようなたくさんアイデアが出ています。これまで以上に普段の活動目標や目指すところを明確にすることで、子どもたちは理想像へと近づくのではないかと思います。アンケートを通して、先生方の児童・生徒育成に対する想いをより深く共有していきたいと感じました。皆様からいただいた貴重なご意見・アイデアを元に、来年度は実際のアクションの検討に入ります。にしみたか学園アクションプランに、どうぞご期待ください。

年度末にあたり

にしみたか学園 学园长 青木睦

これまでの新型コロナウイルス対策の対応につきまして、本学園の教育にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の対応で本学園の教育活動も多くの制限がありました。小学校の遠足、中学校の自然教室や修学旅行の中止が続き、子どもたちにとっては我慢の連続だったと思います。

人間関係に不安をもっていること、そして中学校では将来の進路について不安をもっている生徒が増えているのが現状です。我々大人も感染症に対する不安やストレスのあるこんな時だからこそ、私たち大人が子どもたちの見本として行動していくことが大切なのではないでしょうか。

また保護者の方も学校で子どもたちの様子を参観する機会がなくなり、特に1年生の保護者の方は新しい環境に慣れた子どもを知る機会がなくなったことはとても不安だったのでないでしょうか。さらに地域の行事も中止となりコミュニティ活動を通して直接人と人が触れ合う場がなくなり、不安が増えたのではないのでしょうか。SNS等のデジタル化が進んだとはいえ、直接会って肌で感じ信頼関係をつくることに比べたら比較になりません。

緊急事態宣言下でも学校での子どもたちの笑顔は変わりません。子どもたちの笑顔が私たち大人のエネルギーではないでしょうか。子どもたちの笑顔のために今後も本学園の取り組みにご協力いただきますようお願い申し上げます。

にしみたか学園では今年度3校でQU調査(クラスの居心地や人との関わりを図るアンケート)を行いました。多くの子どもたちが



にしみたか学園 ホームページ

本紙はコミュニティ・スクール委員会コミュニケーション推進部(CS委コミ推進部)が企画編集しています。